

第3回 矢上川地下調節池施工技術検討会 議事要旨

1. 日時 令和5年3月17日（金） 13:30～15:50

2. 出席者

小山幸則委員長、砂金伸治委員、岩波基委員、菊本統委員、真下英人委員

3. 議事概要

- 事務局より「これまでの検討状況と今後の進め方」、「シールドマシン仕様・P&PCセグメント仕様（案）」、「安全・安心な施工に関する取組」、「周辺環境への影響」について説明した。

- シールドマシン仕様とP&PCセグメント仕様について、委員の了承を得た。

- 各説明後の質疑応答において、委員より以下の趣旨の意見があった。
 - （追加ボーリングと添加材配合試験について）
 - ・ 基準に準じた調査間隔は満たしているが、流動性が高い可能性のあるKs層など、注意すべき地層を手厚く調査することも検討するとよい。
 - ・ 細粒分の性質を確認するため、液性限界・塑性限界試験を追加するとよい。
 - ・ 発進立坑周辺は地層厚が変化しており、不明なことが多いため、粒度分布や塑性指数の他に、地下水流向・流速を把握しておくるとよい。
 - ・ 添加材配合試験は、区間割や代表断面の考え方などを整理して検討するとよい。
 - （モニタリングについて）
 - ・ 地表面測量は、深度を踏まえて計測期間を整理するとよい。
 - ・ 地表面測量は、舗装部の剛性に留意し、地中の変状も確認できるよう検討して測点を決めるとよい。
 - ・ 振動測定は、初期掘進時に振動分布を確認して計測箇所を決めるとよい。
 - ・ 地下水位観測だけでなく、水質についても調査の必要性を検討するとよい。